

コース 2 里山歩き

リーダー CL T/T

実施日 平成22年4月24日(土) 天候 曇り

参加者 12(男性 3 女性 9)

グレード B

コースポイント

ポイント	到着時間	出発時間	備考
新津駅		9:15	美術館前まで区バス
美術館前	9:38	9:50	
八幡山遺跡	10:00	10:10	遺跡見学、植物観察
さつき山	10:40	10:40	
東屋	11:10	11:15	
石油の里	12:15	12:15	
さくら広場	12:30	13:10	桜の花の下で昼食
白玉の滝	13:40	13:50	
菩提寺山	14:40	15:00	
石油の里	15:50	16:08	区バス乗車
新津駅	16:40		解散

山行等概要(幹事のコメント)

- 心配していた天気が前日まで雨の予報が曇りに変わり、時々薄日もさすハイキング日和になった。
- 桜の花の下の昼食は花見の気分で話も弾んだ。
次ページの植物解説書も参考にして花の名前を確認した。
- そのほか「マキノスミレ」をはじめ数種類のスミレや「イワウチワ」「ユキワリソウ」が確認できた。



1 タネツケバナ



2 アオキ(雄花)



3 アオキ(雌花)



4 オオバクロモジ



5 ヒサカキ



6 ショウジョウバカマ



7 オオカメノキ



8 コシノカンアオイ



9 タムシバ



10 カヤ



11 ミズバショウ



12 ザゼンソウ



13 キクザキイチゲ



14 エンレイソウ

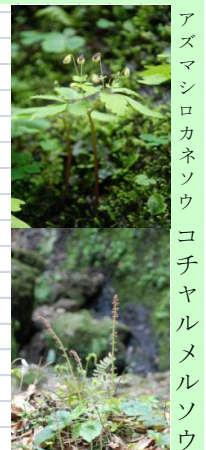


15 ホククネコノメソウ



16 ユキバタツバキ

1. タネツケバナ(種漬花) 田植えの準備に種籾を水に漬けるころ花が咲くのでこの名がついた。
2. 3. アオキ(青木) 雌雄異株。同じ木からの雌木の花と雄木の花が交配すると近親結婚になるので開花の時期をずらすと言う。自らの意思で交配できない植物に神が与えた能力なのだろうか。
4. オオバクロモジ(大葉黒文字) 太平洋側に生えるクロモジに比し葉が大きい。春先独特な形の花を付けるのですぐ見分けがつくがそれを過ぎると見分けにくい。幹にある黒い模様を文字に見立てた名前と言う。枝を折り匂いをかぐと良い香りがする。高級爪楊枝の材になる。
5. ヒサカキ(姫榊) 新津丘陵に多い樹木。関東地方ではサカキの代用にこの木を神棚に供える。2～4月葉のつけ根にクリーム色を帯びた小さな花がびっしりつく。花はガスのような臭気がある。
6. ショウジョウバカマ(猩々袴) 能の名曲「猩々」から来た名前とも言われる。赤い花を猩々の顔に、葉をその袴に見立てたもの。猩々は想像上の獣で猿の一種。オラウータンではないかと言われる。花の色は白色から濃紅紫色までいろいろある。
7. オオカメノキ(大亀の木) ムシカリとも言う。花の形がガクアジサイに似ているが葉の形と花の咲く時期が異なる(春と夏)。また、新津丘陵にはこれに似た同じガマズミ属のヤブデマリがあり、区別がつきにくい。
8. コシノカンアオイ(越の寒葵) カンアオイ属は「カンアオイ」「タマノカンアオイ」「ヒメカンアオイ」「ミヤコアオイ」など数種あるがコシノカンアオイの見分け方は葉の基部が尖っている。
9. タムシバ 葉をもむと良い香りがするので、ニオイこぶしも言う。コブシとよく似ているがコブシは花の下に1枚葉があり、タムシバには葉がない。また、花弁が薄く柔らかい感じである。
10. カヤ(榿) 常緑の高木で大きいものは高さ35mにもなると言うが、新津丘陵ではそのような大木は無いかも知れない(以前小口の神社の御神木に在った記憶がある)写真では花を撮るため葉の状況が分かりにくい濃い緑色で肉厚である。木材は建築、造船の良材で、また、最高級の碁盤、将棋盤の材料になる。
11. ミズバショウ(水芭蕉) 湿原や水辺などに生える多年草。白い花びらのように見えるのは仏炎苞で、小さな花がびっしりついた棒のような花穂を抱えている。葉は花が終わるところにのびはじめ長さ1m近くにもなる。
12. ザゼンソウ(座禅草) 達磨大師が座禅を組む姿になぞらえた名前で、ミズバショウと同じ場所に咲くことが多い。葉は(写真手前)花が終わってからのびる。
13. キクザキイチゲ(菊咲一華) 茎の先に菊に似た花が1個付くことからの名前で、キクザキイチリンソウとも言う。花の色は淡い紫色、青紫色。ピンク、白(写真)など変化が多い。
14. エンレイソウ(延齢草) 大きな3枚の葉とその真ん中に小さな紫褐色の花が特徴ですぐ覚えらる。花弁が緑色のものもあると言うが新津丘陵では見かけたことはない。また、花弁が白いものはシロバナエンレイソウという。
15. ホククネコノメソウ(北陸猫の目草) 新潟県から島根県の日本海側に生えるユキノシタ科の草本。名前は果実が開いた時、中の種が猫の目のように細く横並びにつくことによる。
16. ユキバタツバキ(?) ユキバタツバキという名は俗称でないかと思われる。日本海側に多い新潟県花の「雪椿」と太平洋側に多い「藪椿」の交配種で、現在では両種の交配が進み、純粋の雪椿は少なくなっているとの事。
17. アズマシロカネソウ(東白金草) 最初この花を見たときはそのユニークさに驚いた。秋田県から福井県の日本海側に生えるキンボウゲ科の草本で、この山では白玉の滝周辺に多い。
18. コチャルメルソウ(小哨唎草) 裂開した果実の形がラーメン屋の吹くチャルメラに似ているのでこの名がある。



アズマシロカネソウ
コチャルメルソウ